

〔「法学新報」第28巻10(324)号 大正7年11月1日〕

演説

○卒業生諸子を送る

法学博士 岡野敬次郎

閣下並諸君、茲に本日をして我中央大学第三十三回の卒業式を行ふに当りまして、来賓各位の御責臨を辱なく致しましたるは、本学の光榮とする所でありまして不肖本学を代表して謹んで深厚なる謝意を呈しまする

顧みれば本学は昨年不幸にして祝融の災に罹りまして、校舎も図書も悉く烏有に帰したのであります。而して亦未だ幾ならずして、学長奥田博士を喪ひまして、本学に取り災厄の頻頻たること未だ此の時より甚しきはなかつたのであります。此の校務多端の時に当りまして学長の位地は一日も欠くべからざるものであると云ふ論がございまして、本学社員中に所謂濟時の才に乏しからず此濟濟多士の間に適材を得ることは敢て難くないのであります。併ながら何れも本学の経営に力を借すの余裕なく、偶々社員並本学出身の學員諸君交友不肖私を学長の後任に擬して就職を勧説せられること甚だ懇切でありました。私は能薄而才識、固より学長の器に非ざるのみならず、殊に難局に衝るの力はないのであります。義終に辞讓する能はざるものあ

ることを覚りまして、叨に学長の任に就き而して微力を本学の経営に致すことに相成つたのであります。是より先校舎の焼失するや、姑く丸の内に仮校舎を設けまして、茲に一学年の授業を継ぎまして、其の間に旧業の地に校舎の新築に著手致しまして、去る八月の末日を以て其の工事を竣り、新学年の開始と共に此の新築校舎に於て授業を行ふの運に迫たのであります。前学年の卒業式は校舎の設備に省みまして暫く之が延期を致しましたが、今や新校舎の落成を機会と致しまして、茲に本日卒業の式を行ふことに相成つたのであります

私は敢て茲に、本学創立の趣旨や、創立以来の沿革を、諸君の前に申述べる必要はないと存じます。唯一言致したきことは、本学の学風と称するものは創立以来三十有余年、未だ曾て渝つたことはないであります。其学風とは何であるかと申せば則ち真摯剛健、時流を趁はず、浮華を学ばず、唯内容を積み、実質を充さしむることを是れ力むるにありてあります。学風既に斯く申上ぐる通でありますから、諸般の設備も自ら之に準じまして、校舎には裝飾なく、百般の器具に於て亦裝飾なく創立者、経営者の精神に於ても亦一として裝飾なるものはないのであります。此の新築校舎を御一覽下されたならば、質朴簡素、毫も人目を惹くに足るべき美観を備へて居らぬことを御諒知下さることと存じます。曾て明治十九年、本学第一期の卒業式を行ふに当りまして、来賓たる当時の英国公使は、本学の校舎の甚だ素朴なることに驚いて、故菊池武夫博士を顧みて「無裝飾の好学校」と云ふ一語を発せられて相偕に哄笑したと

云ふ逸話を貽しました。真に本学は何等の裝飾を施さず、三十年前然り、今日亦然り、今後固より心に然らざるべからずと信ずるのであります。之を学長たりし人に視ましても、趣旨の存する所は御諒解相成ることと思ふのであります。増島博士然り、故菊池武夫博士然り、故岡村博士然り、故奥田博士亦然り。乍去斯の如きは寧ろ吾等同人の私に以て誇とする所でありまして、唯々益々此の精神を維持し此の学風を發揚して以て本学創立の趣旨と相終始せむことを期する次第であります。之に反して教育の改善、施設の改良のことに至りましては、常に至大の注意を以て之を謀りまして、年一年之が向上の道を講じ、眞個人材を養成せむことを力めて懈らざる積りであります。本日此所に御來臨下されました穂積老先生に特に願ひまして、法理学の特別講義を煩はすが如きは其の一例であります。私は仮校舎に於て自ら先生の講筵に侍して、親しく先生の口より諄諄として説かるる所の深遠の法理論を伺ひまして、今更の如く、所謂基礎学科の甚だ緊切なることを感じたのであります。又花井博士は既に一たび刑法論の御講義をなされまして、此の学年に於ても学生諸君の懇請に応じ、重ねて博士を煩はす積りであります。更に江本博士、鳩山博士、其の他斯道の大家に願ひまして、各其の専攻学科の科外講義を開く積りで居ります

今や本学の成績は、幸に識者の諒認する所となりまして、基金を醸出して本学の経営に資せらるる同情者も甚だ少なくないのであります。講師、学員諸氏は勿論、本学に格別の縁故もない方方、澁澤、三井、住友の各男爵、原六郎氏、美濃部朝鮮銀

行総裁、山下龜三郎氏、服部金太郎氏、内藤久寛氏、小池國三氏、市島徳享氏、是等名士は深厚なる同情を本学に寄与せられたのであります。私は此の機会に於て感謝の誠意を表し、併せて吾等同人相偕に努力して必ずや此の江湖諸賢の同情を曠くせざらんことを誓ふ次第であります

茲に本学の現況を一言申上げますれば、前学年の卒業者諸君は二百九十二人。創立以来の卒業生の数は約七千人であります。而して現に本学に学籍を有する学生は総数三千六百六十人の多きに及んで居るのであります。殊に本学年に於て新に入学したる学生の数は千八百三十八人の多数に上つて居ります。実に本学創立以来稀に見るの盛況であります。学事の御報告と致しましては、他は省略して此の一事に止めます

是より卒業諸君に対して、例に依つて一言の告辞を呈せむと思ふのであります諸君は多年勉学の勞を積まれ、其の効空しからずして其の業を卒へ、今は既に社会の各方面に、各其の志す所に従つて活動せられつつあることは諸君の為に慶賀せざるを得ないのであります。且斯く多数新進の人士が社会に歓迎せられますることを見ましては、本学も亦大に之を光榮とし、吾等同人真に欣喜の至りに堪えへない次第であります。諸君、我帝国の地位は申す迄もなく内外頗る多事でありまして諸君が心に奮闘し其の力を試むべき絶好の機会であると信じます。歐洲の戦乱は既に四年の久きに彌つて居りまして、近時或は敵国の屈服に依つて講和の時期に入らむとするが如き感はないと断ぜられませぬが、果して平和克復何れの時に来るかは逆め知り難

いと存じます。此の世界的の大変局に処して各国皆其の急に  
応ずるの政策を立てて、経済に財政に、従つて又立法に一とし  
て戦時の色彩を帯びないものはないと申しても敢て過言ではあ  
るまいと思ひます。所謂戦時経済策あり、戦時財政策あり、又  
戦時立法即ち変態立法もあります。而して交戦国の戦時政策の  
中に於て、各種の動員計画なるものは其の最も顯著なる一例で  
あると信じます吾吾は平時に於て動員とは何ぞやと問はるれ  
ば、陸海軍が軍隊艦船の戦時編成を行つて、之をして戦闘に就  
かしむるの準備であると答へて過はなからうと思ふのでありま  
す。然るに此の度の戦乱に伴ひましては、苟も戦争の遂行に必  
要なる目的を以て、国家の行ふ所の或種の統制的行為は皆之を  
動員と総称して居る様に考へられます。是に於てか工業動員あ  
り、食糧動員あり、金融動員あり、是れ皆経済的各方面に行ふ  
所の戦時編成であります。其の他或は輸出の制限、禁止である  
とか、或は輸入の制限禁止であるとか、更に船舶の管理制度あ  
り、政府の専売制度を強行するあり、各国共に専ら戦争の遂行  
を念として、他を顧みるの暇なしと云ふ有様であります。而し  
て是等交戦国の戦時政策なるものが、我帝国の産業に及ぼした  
影響の甚大なること、従つて我経済社会に変調を来たしたるこ  
とは、諸君の耳目に触るる顯著の事実であると思ひます。而し  
て戦乱は畢竟終熄せざるを得ないのであります。而して其の時  
期到来するの日は、各国相競ふて、戦乱に依つて被つたる瘡痍  
を癒し、攪乱せられたる経済状態を復興し、以て銳意国力の回  
復を図るの時であることは論を俟たないことであります。此の

時に当りまして交戦各国の負担した所の、財政負担は如何に之  
を処理すべきか、時局の急に應ずるが為に立つた所の変態経済  
政策は如何にして之を戦後に順応せしむべきか、更に又経済的  
大競争の為に新に如何なる政策を立てるであらうか、蓋し今次  
の経験に依て各国共に益々自営自給の策に出づることはなから  
うか、輸出の奨励、輸入の制限或は禁止と云ふ方策を執りはせ  
まいか、所謂経済同盟は如何、関税同盟は如何、巴里経済会議  
の目的は如何にして之を遂行すべきか、是等戦後に於て起るべ  
き問題は一として我帝国の経済社会に影響を及ぼさざるもの  
はないと信じます。我帝国は幸にして砲火の中心を距ること遠き  
が故に、一般の国情に於て他の交戦各国と異なるものはありま  
すけれども、又平時を以て律すべからざる政策を施したること  
は諸君の熟知せらるる所であります。之を要するに戦時の応急  
政策なるものが、平和克復の後に於て平時の恒久的政策に移る  
ことは、戦後の経営として極めて重大なる事柄でありまして、  
今より之が準備を整へ、方策を攻究すること応に最も務むべき  
ことであります、居治而不忘乱の古語を借りて申せば、今日は  
乱に居て治を忘れずとも申しませうか、即ち戦時より平時に対  
する準備を怠るべからざる時機であると信するのであります。  
翻て我邦の眼前に横はる問題を捉へて見ても、物価調節の声は  
甚だ盛であつて、政治家も学者も実業家も、之を論ずること甚  
だ囂囂たりと申しますか、通貨収縮論も起り、輸出制限論も起  
り、米穀官営論も起り、而して近時の称して米騒動と云ふもの  
は、其の近因は米価の狂騰にあること固より疑ふべきに非ざれ

ども、其の主たる原因に付ては或は之を国民思潮の激変に在りと為し、国民思潮の激変は即ち社会問題の生ずる所以であると論じて、所謂社会政策なるものの急施を説く者亦少なくないと存じます。今や我帝国の財界は戦乱の余響を受けて頗る好況を呈して居る、事業は日に勃興し、労働者の争奪を見るの勢ひでありますが、平和克復の後に於ては蓋し此の状況の永続を望むことは遺憾ながら出来ないと思ひます。或は打撃を受けて経済競争に堪へざるものもありませう、或は規模を縮小し事業を縮小せねばならぬものも必ずや多数あらうと思ひます。此に至つては今日事業家の争奪しつつある労働者は、其の業を失ふ者甚だ多かるべきは想像に難くない、或は必至の勢であると思ひます。是れ社会政策なるものの極めて緊切にして、其の施設の良否は帝国の隆替に繋るの大問題であると申しても過言ではあるまいと思ひます。彼の天の未だ陰雨せざるに迫で牖戸を綯繆するの覚悟が極めて喫緊のことであると存じます

以上唯私の思ひ当りました一端を挙げたに過ぎませぬが、是等問題の解決は何れも人材の力に待たなければならぬのでありまして、諸君の前途多事であり、而も亦甚だ多望であると思ふのである。諸君は宜く一層研学を励み、経験を積み、手腕を磨き、各其の得る所を以て国家の進運に貢献せられむことを希望して已まないであります。諸君の本学に学ぶ所以も本学の諸君に誨ゆる所以も実に此に存するのであります

茲に不肖初めて学長の任を以て卒業式を行ふに当りまして、敢て蕪言を呈して諸君の前途を祝福し、併せて来賓各位臨場の

御好意に対して満腔の謝意を表します（拍手）

右一篇は去月十二日挙行の中央大学第三十三回卒業式に臨み岡野学長が卒業生諸氏に与へられたる訓示演説の速記なり今や博士の訂正を仰ぎて茲に掲ぐることにせり（記者識）